

発災2週間後、石巻市内で活動しました。  
初めての救護活動であり、  
私の救護活動の原点でもあります。  
あの時、あの場所で今やれることに  
精一杯取り組んでいた皆さんの姿が  
印象的でした。その力強さに私が逆に  
励まされていました。  
決して忘れません、ありがとう。

名古屋第一赤十字病院 久保敦史



こころのケア班として、  
門脇中学校の体育館を訪問しました。  
「長崎から来ました。」とお話したら  
「そんなに遠い所から来たの。  
長崎も台風で大変でしょう。」と  
逆に労われたことを覚えています。  
皆様お元気になさっているでしょうか。  
長崎からお祈りします。

日赤長崎原爆病院 本山康志

当時、現地の病院で自身も被災者で  
あるにもかかわらず職務を全うしようと  
する方々をみて、とても勇気づけられました。  
我々が直接関われる事や時間は  
少ないですが、震災以来、  
毎年足を運んでいる同僚もあり、  
私たちの心には常に皆さんへの想いがあります。  
これからも共に。

相模原赤十字病院 M



あの時の光景を今も忘れていません。  
被災者の方に出来た事や残せた事が  
あったか否かは今でも分かりませんが、  
赤十字の使命を感じ精一杯  
活動させていただきました。  
私にとって縁も所縁も無い土地でしたが、  
またもう一度この目で石巻の今をみたいと  
思っています。

今津赤十字病院 岩本良平

2年前の春、初めて集会所での  
「お茶っこ」に参加しました。  
コーヒーを漬け物と一緒に飲んだのは、  
初めてでした。あの時に教えていただいた  
大根のらっきょう酢漬は、今も時々  
作っています。今はまだ難しいですが、  
コーヒーとポットを持参して、  
また必ず行きます。

さすな新聞 珈琲屋のゆうちゃん(神奈川)



石巻赤十字病院で診療活動を致しました。  
高知という離れた土地に住んでおり、  
直接的なお力添えは  
難しく忸怩たる思いです。  
一日でも早く皆様の「心身の復興」が  
叶えられます事を祈り申し上げます。

高知赤十字病院 山崎浩史

当時、私は巡回診療に  
事務として同行しましたが、  
元気を与える役目の私が、  
皆さんからの温かいお言葉に、  
逆に元気づけられたのを今でも忘れません。  
震災から10年、石巻と福岡、  
距離は離れていても心はひとつです。

福岡赤十字病院 江崎信行

震災から約1ヵ月間、  
石巻で救護活動や関係団体との  
連絡調整を行いました。  
私たちの宿泊拠点として  
“桃生のいきいき交流センター”を  
快く貸してくださった地域住民の皆様に  
感謝申し上げます。  
差し入れもおおいかったです。

日赤九州国際看護大学 森務



昨年からの感染拡大で、  
大変な日々をお過ごしだと思います。  
10年前の震災と重なる部分があり、  
思い出される事もあるのではないのでしょうか。  
しかし私たちは、励まし合い、  
絆を築いてきました。  
今は寂しい時間も多いたいですが、きっとまた  
笑って過ごす時が来ると信じています。

さすな新聞 わっさー(塩竈)



石巻赤十字病院で患者さんに  
薬を確認し手渡しているとき、  
震災直後で最も混乱していた時期にも  
関わらず患者さんから「来てくれてありがとう」  
という声をかけていただきました。  
雪もちらちら降る寒空の下、  
心だけは温かくなれた瞬間の声の響きは  
今も残っています。

広島赤十字・原爆病院 宅江良雄



救護活動経験のない自分が  
力になれるだろうか？と不安な気持ちで  
石巻に向かいました。到着と同時に、  
被害状況を見て、「自分にできることを。  
少しでも」と思い、無我夢中に動き  
あつという間に時が流れたように感じました。  
皆さんが心身ともに健康でいられるよう  
祈っております。

日赤医療センター S

さすな新聞のお届けに石巻へ二度  
伺いました。快く玄関を開けて  
「ご苦労様」と労ってくださったり、  
お茶っこに招いてお話を聞かせてくださった  
皆様のことを思い出さず、  
早く会いに行きたい気持ちでいっぱい  
になります。またお会い出来る日を  
楽しみにしています。お身体に気を付けて。

さすな新聞 きむ(名古屋)



震災後の蛇田小学校で活動しました。  
雪降る寒さの中、若い方々が率失して  
お年寄りの方に声をかけられている姿が  
印象的でした。  
10年たっても忘れられません。  
これからも助け合いの心を  
大切にしていきたいと思っています。

成田赤十字病院 竹内澄子



もう10年になるんですね。  
新型コロナのため、  
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、  
また会いにいきますね。  
時間が経っても悲しいお気持ちは  
変わらないと思いますが、少しでも  
元気出してもらえると嬉しいです。  
新聞配りにいったらお話ししましょう。

さすな新聞 佐藤俊一/しゅん(東京都)

10年間、  
たくさんの涙と笑顔と皆さんと共有しました。  
直接お会いした方、  
紙面を通して出会ってくださった方、  
すべての出会いに感謝です。  
11年目のこれからも、共に歩んでいきましょう。  
あの日を生き抜き、  
そして今日まで生きてくれて、ありがとう。

さすな新聞 岩元暁子/あき(東京/石巻)

